

ポスト京都を考える

日比野佑美 🍷 仲谷亜希子 🍷 井土聡子 🍷
関奈保子 🍷 有野洋輔 🍷 林工事 🍷



ポスト京都を考える順番

- ◆ 地球温暖化問題の特質を考える
- ◆ 京都議定書の特徴を考える
- ◆ 現状を考える 1. 先進国
2. 途上国
- ◆ まとめを考える



地球温暖化問題の特質

1. 地球規模の公共財 非排除性・非競合性

温室効果ガス濃度 公共財

利他的

フリーライダー問題

対応の仕方 促進的な対応、納得感

地球温暖化問題の特質

2. 技術開発が必要とされる長期的課題

代替技術の開発が不可欠

3. 費用対効果の追求

効率性 (費用対効果のよい選択肢の採用)

衡平性 (途上国との関係、国際競争への影響)

4. 気候変動の解明は進行中

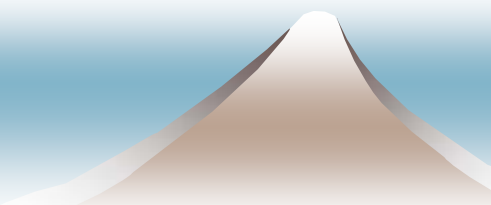
不確実性 Ex. 気温 1.4 ~ 5.8 上昇、
海面 9 cm ~ 88 cm 上昇 (by 2100年)

京都議定書の特徴

1. 数値目標をめぐる諸要素

- (1) 削減目標の達成難易度の格差
- (2) 基準年
- (3) EUバブル
- (4) 不遵守の場合の罰則

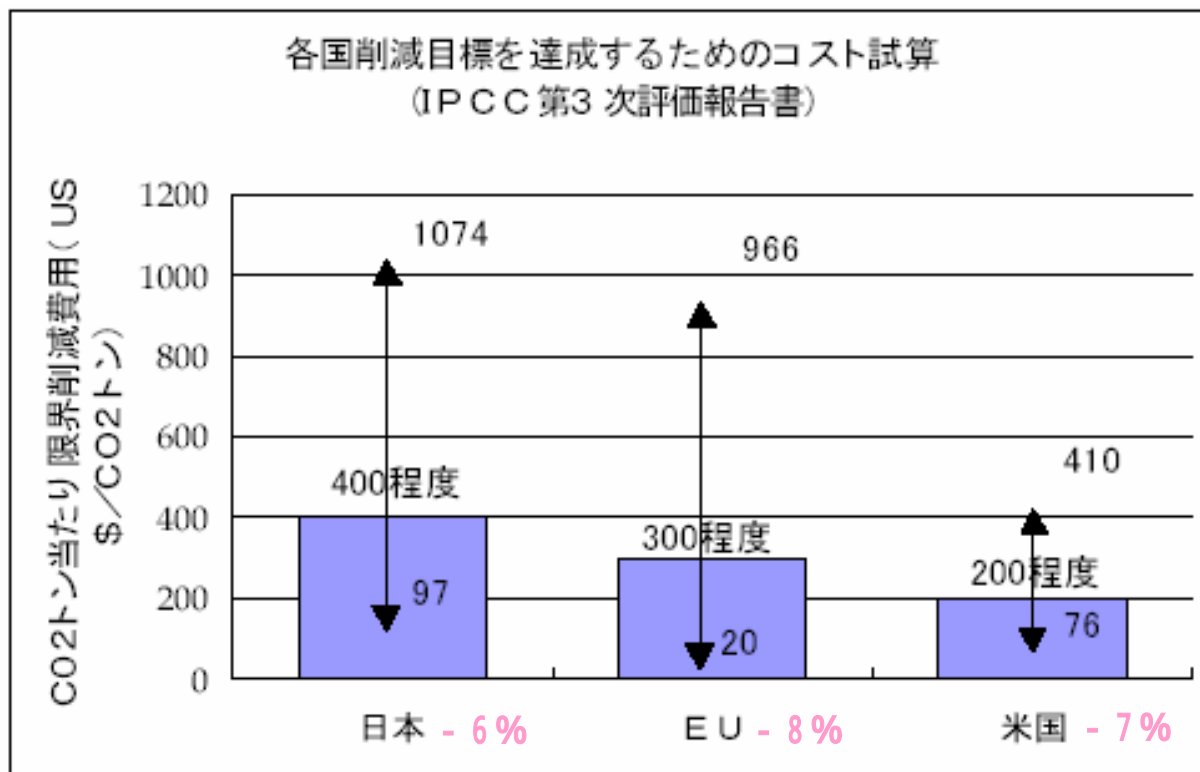
2. 約3分の1の問題



京都議定書の特徴

1. 数値目標をめぐる諸要素

(1)削減目標の達成難易度の格差 と (2)基準年 と (3)EUバブル



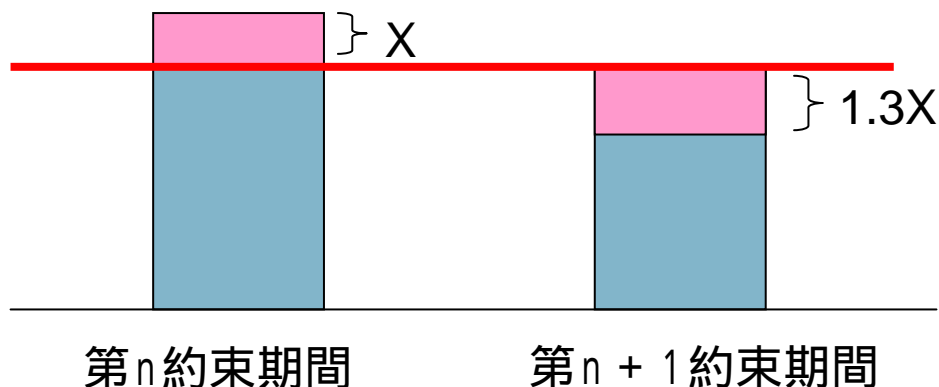
(注) 矢印線は、複数の試算による幅を示したものの。また、400、300、200 という数字は、各種試算を平均した値。

京都議定書の特徴

1. 数値目標をめぐる諸要素

(4) 不遵守の場合の罰則

- …達成できなかった削減量の1.3倍を次期の約束期間に割り当て許容量から差し引く



インサイダーに厳しくアウトサイダーには寛容な仕組み

京都議定書の特徴

- ◆ これらを理由に米・豪が離脱。
- ◆ 途上国は、「共通だが差異のある責任」とベルリンマンデートを楯にして義務を負うことを拒んでいる。

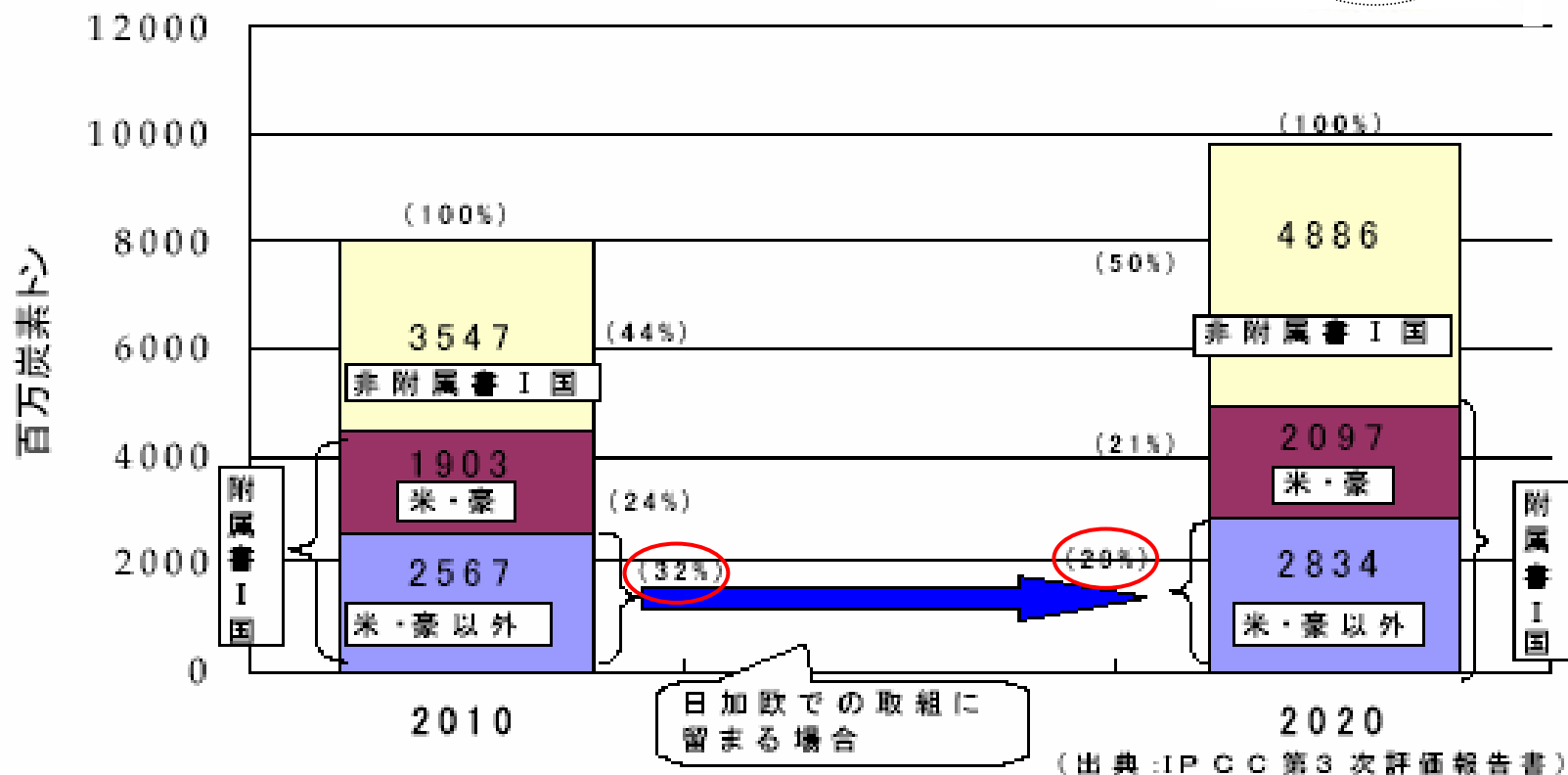
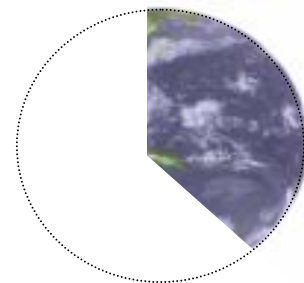


「約3分の1の問題」

京都議定書の特徴

2. 約3分の1の問題

世界の二酸化炭素排出量見通し

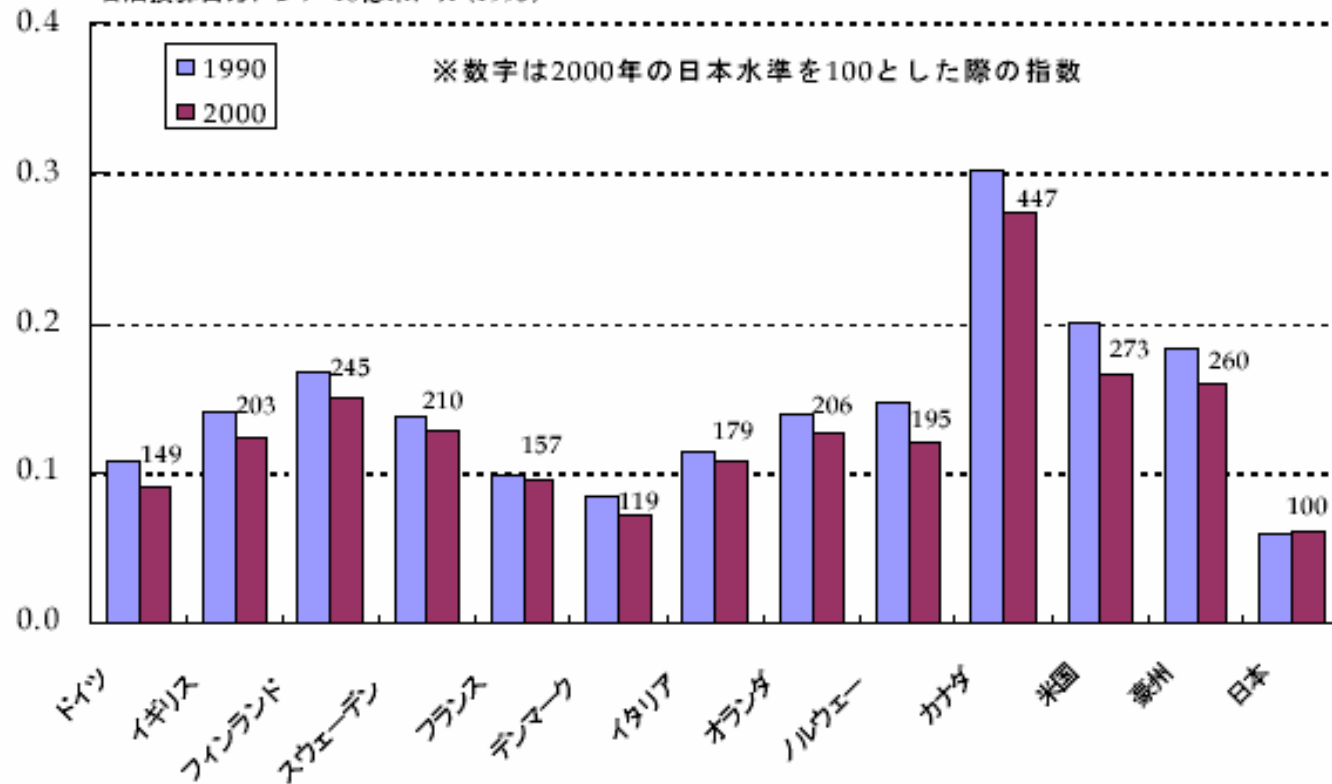


現状

- 1 . 先進国
- 2 . 途上国
- 3 . 先進国と途上国

現状 エネ効率 1. 先進国

主要先進各国における最終エネルギー消費の対GDP原単位
石油換算百万トン/10億米ドル(1995)



(出所) OECD/IEA, Energy Balances of OECD Countries

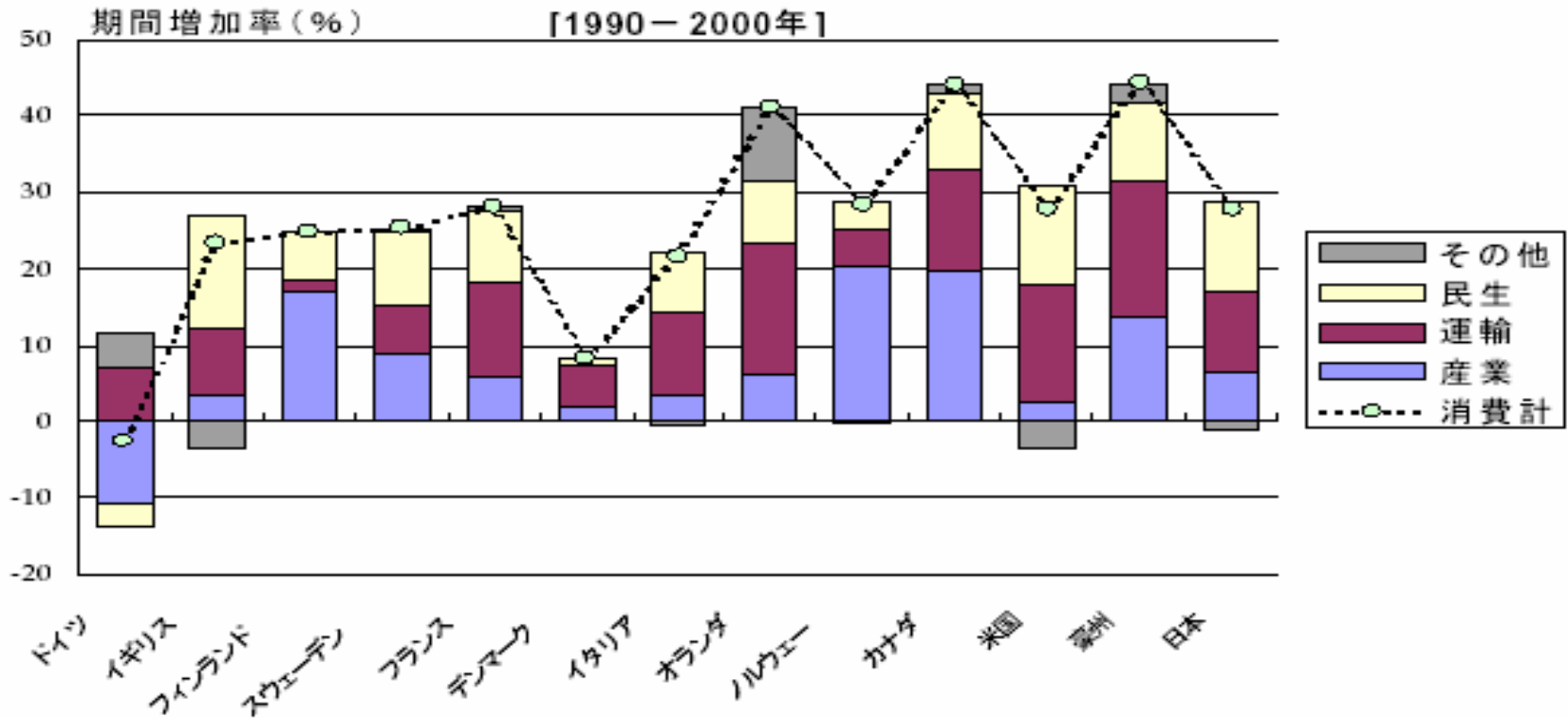
現状 温暖化対策外の要因による排出削減

- ◆ 独・東西統一
 - ◆ 英・エネルギー転換
 - ◆ 露・経済低迷
- } GHG排出減少

温暖化対策を目的とした結果ではなく、
副産物として実現された。

現状 運輸・民生部門のエネルギー消費量増大

主要先進各国の最終エネルギー消費の推移と部門別増減寄与

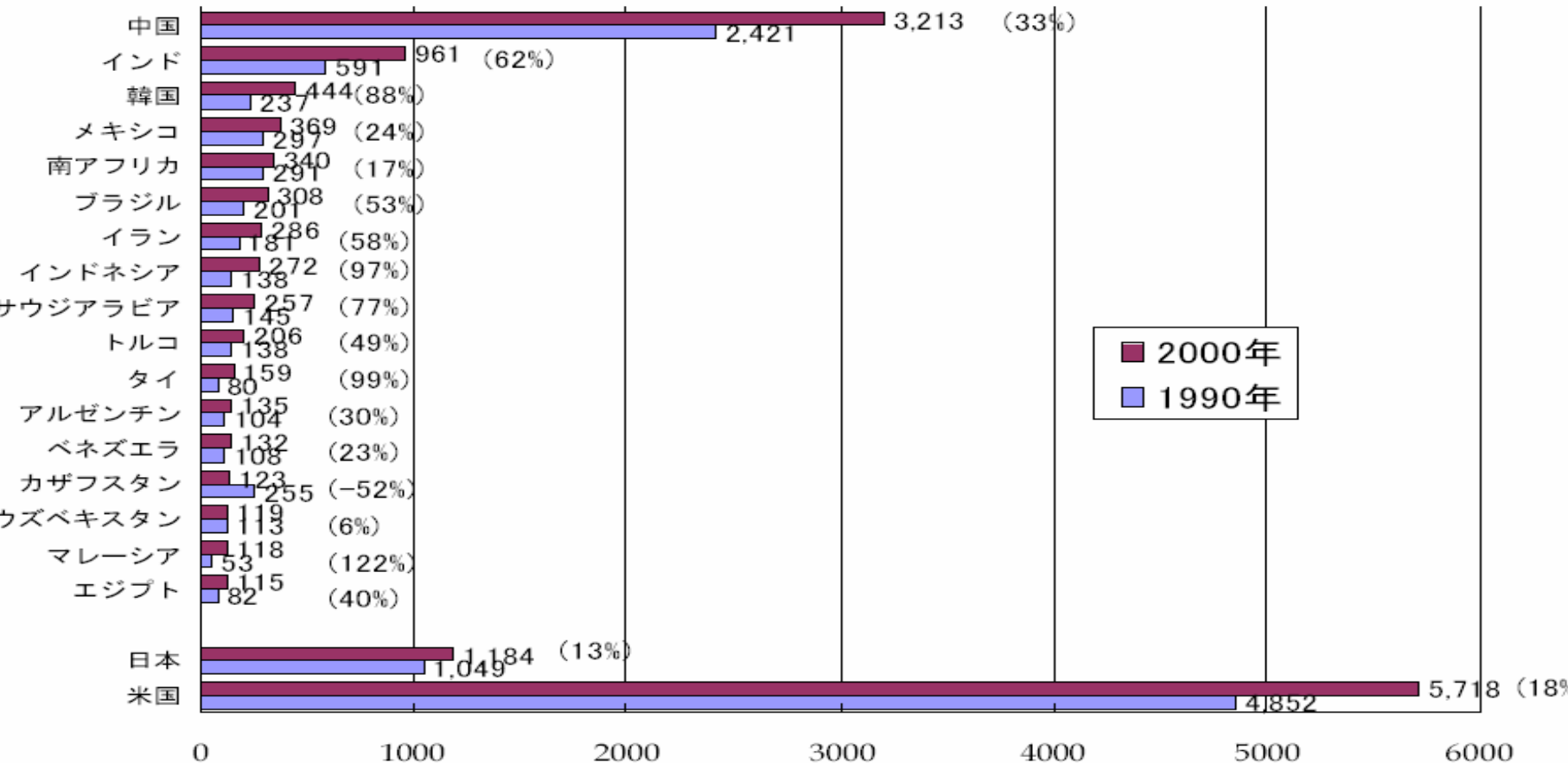


(出所) OECD/IEA, Energy Balances of OECD Countries (注) 産業には農業を含む

2. 途上国

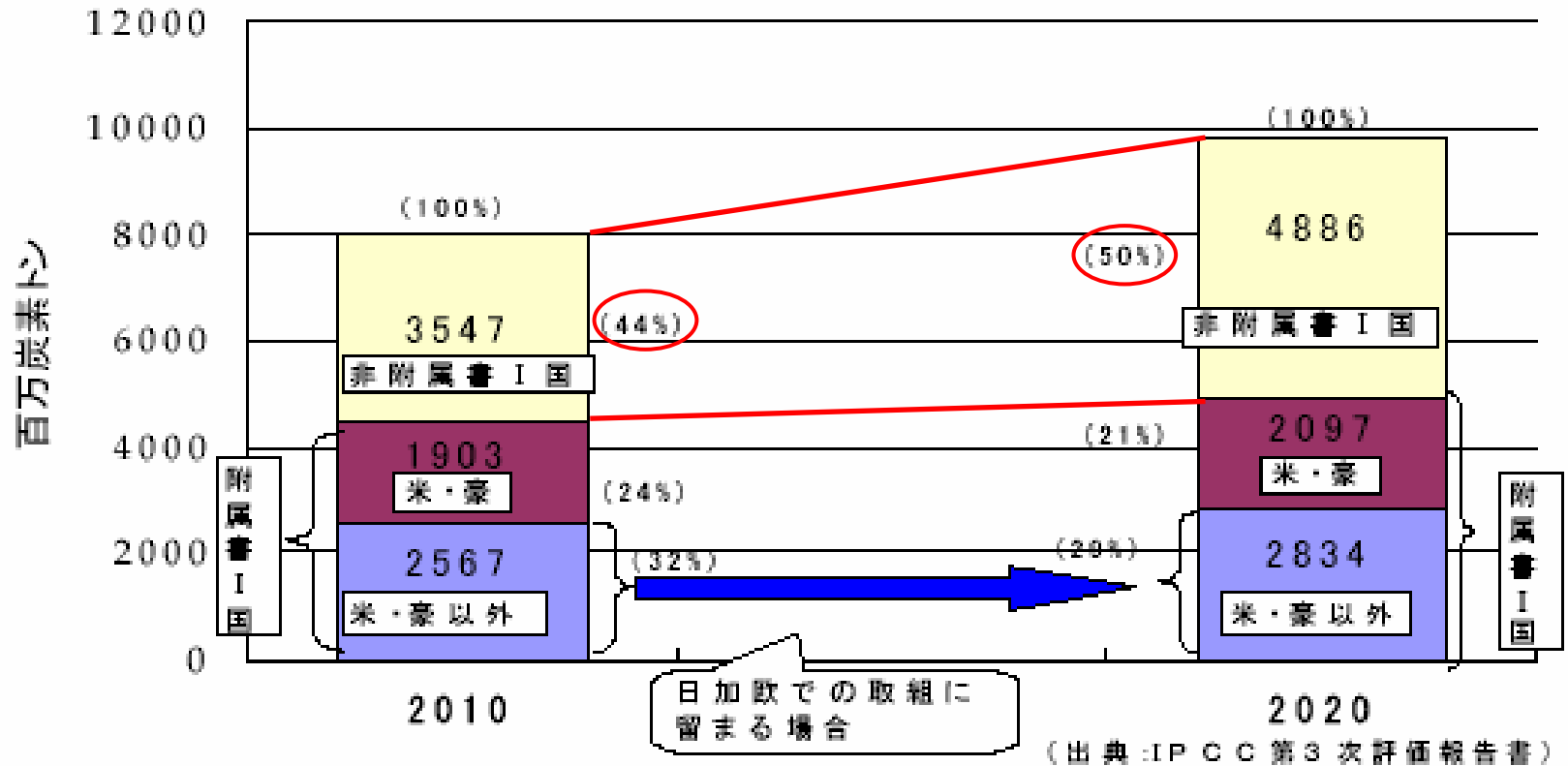
現状 エネルギー起源のCO2増加

主要途上国のエネルギー起源二酸化炭素排出量（1990年－2000年）



現状 今後の予測

世界の二酸化炭素排出量見通し



3. 先進国と途上国

- ◆ エネルギー起源CO₂排出量
上位30ヶ国中、途上国15ヶ国(2000年)
- ◆ GDP当たりのエネルギー起源CO₂排出量
途上国21ヶ国
- ◆ 1人当たりのエネルギー起源CO₂排出量
途上国10ヶ国

負担のあり方を考えるにあたっては、既存の先進国、途上国という分類にとらわれてはならない。

まとめを考える

- ◆ なるほど。以上のことを踏まえて、途上国と米国の参加を得られるようなレジームを構築しなければならないのか。
- ◆ がんばります。



THE END